

風水害は気象情報に注意

台風や豪雨の威力は計り知れません。事前の対策で被害を最小限に抑えることが大切です。

雨の降り方

1時間 30mm 以上、連続 100mm 以上の雨が降るときには、注意が必要です (気象庁 雨の強さと降り方より)

				
やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に 10mm以上～ 20mm未満	1時間に 20mm以上～ 30mm未満	1時間に 30mm以上～ 50mm未満	1時間に 50mm以上～ 80mm未満	1時間に 80mm以上～
ザーザーと降ります。地面からはね返りで足下が濡れます。この程度の雨でも長く続くときは注意が必要です。	どしゃ降りです。傘をさしていても濡れます。側溝や下水、小さな川があふれ、小規模のがけ崩れが始まります。	バケツをひっくり返したように降ります。道路が川のようになります。山崩れ・がけ崩れが起きやすくなり、危険地帯では避難の準備が必要です。	滝のように降ります。水しぶきで、あたり一面が白っぽくなり、視界が悪くなります。土石流が起こりやすく多くの災害が発生します。	息苦しくなるような圧迫感があり、恐怖を感じます。雨による大規模な災害が発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要です。

集中豪雨とは

集中豪雨とは、短時間のうちに狭い地域に集中して大量の雨が降ることをいいます。集中豪雨は梅雨の時期や台風のシーズンに発生しやすく、狭い地域に限定して起こる現象であるため、予測が難しい面があります。最近では1時間に100mm近い雨が降ることも珍しくなくなり、洪水やがけ崩れなどで大きな被害が出ることもあります。突発的で局地的な豪雨はゲリラ豪雨と呼ばれることもあります。



風の強さと吹き方



(気象庁 提供) (気象庁 風の強さと吹き方より)

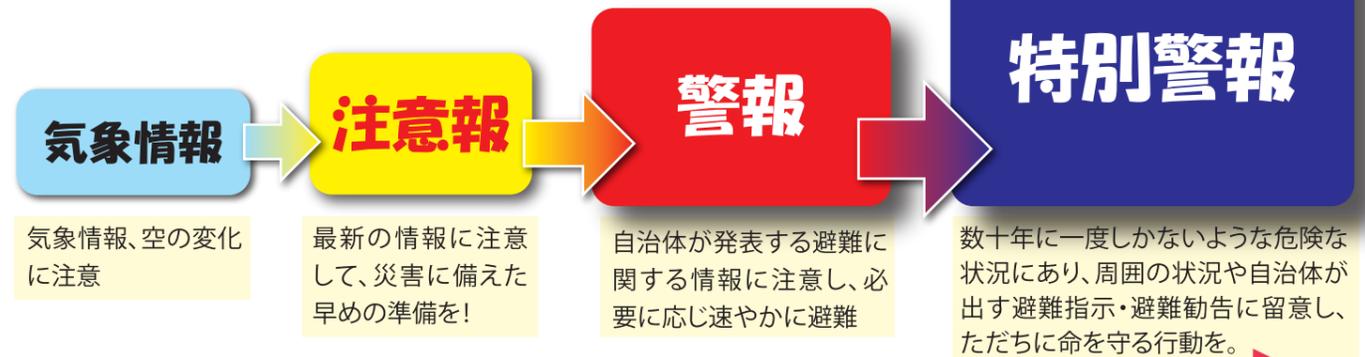
やや強い風	強い風	非常に強い風	猛烈な風
風速 10m/s 以上～ 15m/s 未満	風速 15m/s 以上～ 20m/s 未満	風速 20m/s 以上～ 25m/s 未満	風速 25m/s 以上～ 30m/s 未満
おおよそ～ 50km/h	おおよそ～ 70km/h	おおよそ～ 90km/h	おおよそ～ 110km/h
取りつけの不完全な看板やトン板が飛び始める。樹木全体が揺れる。	風に向かって歩けない。転倒する人も出る。小枝が折れる。	しっかりと体を確保しないと転倒する。風で飛ばされた物で窓ガラスが割れる。	立ってられない。樹木が根こそぎ倒れ始める。ブロック塀が壊れる。

※表に示した風速は10分間の平均風速です。風の吹き方は絶えず強弱の変動があり、瞬間風速は平均風速の1.5倍から3倍以上になることがあります。

特別警報・警報・注意報

日頃から気象情報や空模様を注意をして、早目の行動をとることで自然災害による被害を最小限におさえることができます。気象庁が発表する注意報や警報、特別警報などの気象情報に注意しましょう。

特別警報とは



土砂災害警戒情報とは

大雨警報(土砂災害)が発表されている状況で、土砂災害発生の危険度がさらに高まったときに、市町村長が避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるよう、また、住民の自主避難の判断の参考となるよう、対象となる市町村を特定して警戒を呼びかける情報で、都道府県と気象庁が共同で発表しています。

長野地方気象台は、大雨や強風などの気象現象によって、災害が起こるおそれのあるときには「注意報」を、重大な災害が起こるおそれのあるときには「警報」を発表して警戒を呼びかけていましたが、これに加え、**重大な災害がおこるおそれが著しく大きい場合**には「**特別警報**」を発表して、最大限の警戒を呼びかけています。

土砂災害警戒情報

非常事態
ただちに命を守る行動を!!

村からの避難勧告等に従い直ちに避難所に避難! 外出が危険なときは、家の中で少しでも安全な場所に移動。冷静な判断が大切。周囲の状況に応じた行動を!!

特別警報基準

長野地方気象台が発表する特別警報基準

種類	発表基準
大雨	台風や集中豪雨により数十年に一度の降雨量となる大雨が予想され、若しくは、数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により大雨になると予想される場合
暴風	数十年に一度の強度の台風や同程度の温帯低気圧により暴風が吹くと予想される場合
暴風雪	数十年に一度の強度の台風と同程度の温帯低気圧により雪を伴う暴風が吹くと予想される場合
大雪	数十年に一度の降雪量となる大雪が予想される場合

「特別警報が発表されない」は「災害が発生しない」ではありません。
これまでどおり注意報、警報、その他の気象情報を活用し、早めの行動をとることが大切です。普段から避難場所や避難経路を確認しておきましょう。